

魔法使

3人の助手

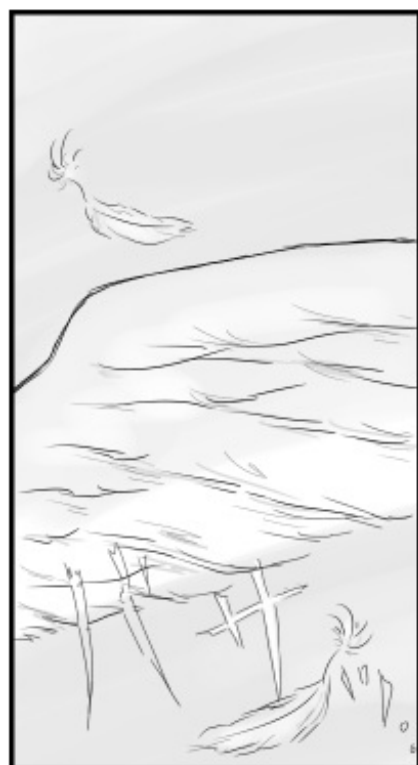


描きだすもの

umikingyo









貴方たちの事を
知っておられる

…天空王さまは



竜の国のため
命を賭し
戦い続けてきた

その御姿を…




遠き場所から
竜の国を
想ってくれた


その心を




そして



死を迎えた魂は
もう二度と



同じ命となり
龍の国に生まれる事は
できないが



天空王さまは
この国を迎えようと
している破滅を

そしてそれを
止めるべき者の死を
嘆いておられる…



木竜



ヨウの魂の
器としよう

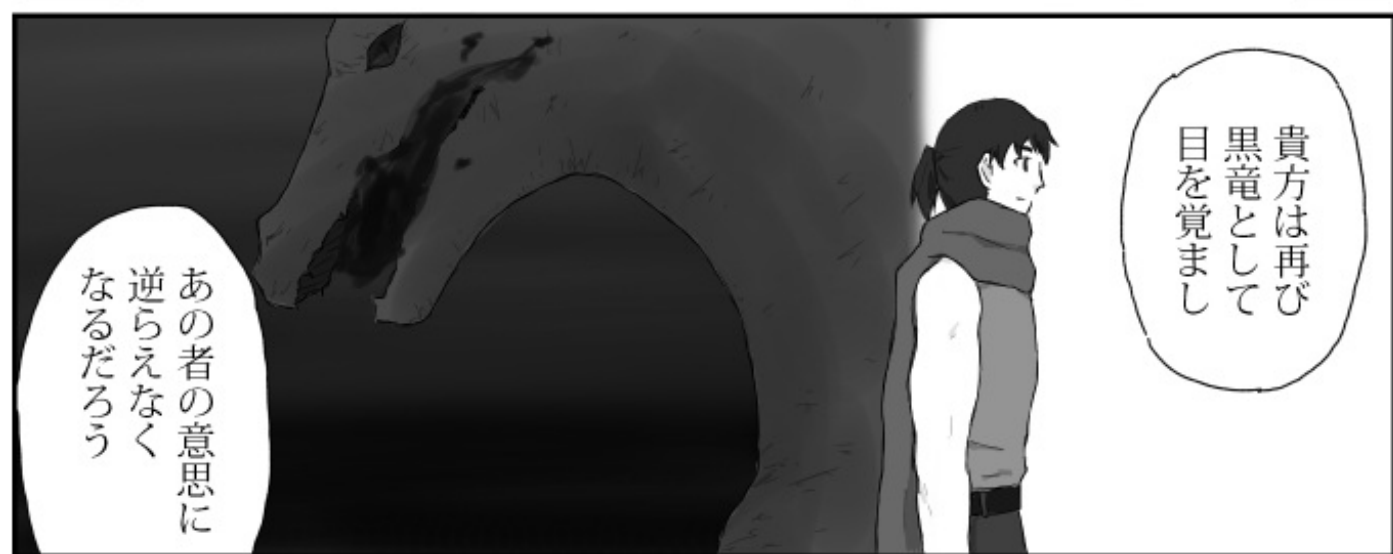
貴方の身体に
刺された剣を



あの剣には
邪悪を祓う魔力が
宿るが

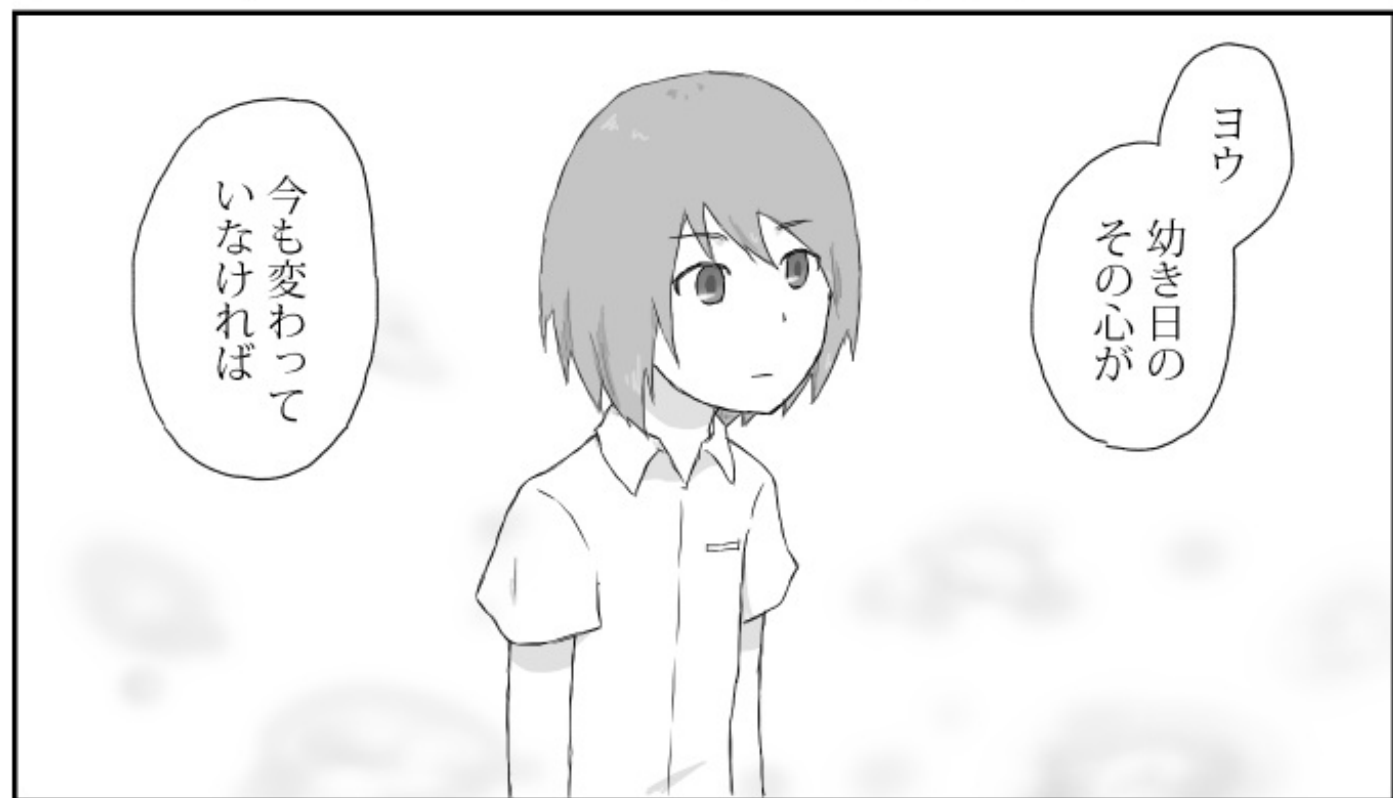
それも
いずれは尽きる

そうならば



貴方は再び
黒竜として
目を覚まし


あの者の意思に
逆らえなく
なるだろう





ヨウ

幼き日の
その心が


今も変わって
いなければ




——その剣に
宿る魂が



新たな力と
なり：



黒き竜の
意思を



喰い止める事が
出来るだろう






ト
ン
ッ

…
木竜さん




…
ッ






妹と一緒に
学校から
帰る途中で

僕は
死んだんです…



たぶんヒヨリも
そのうちこの世界に
来ると思う

もし会う事が
あったら
よろしくお願
い
します

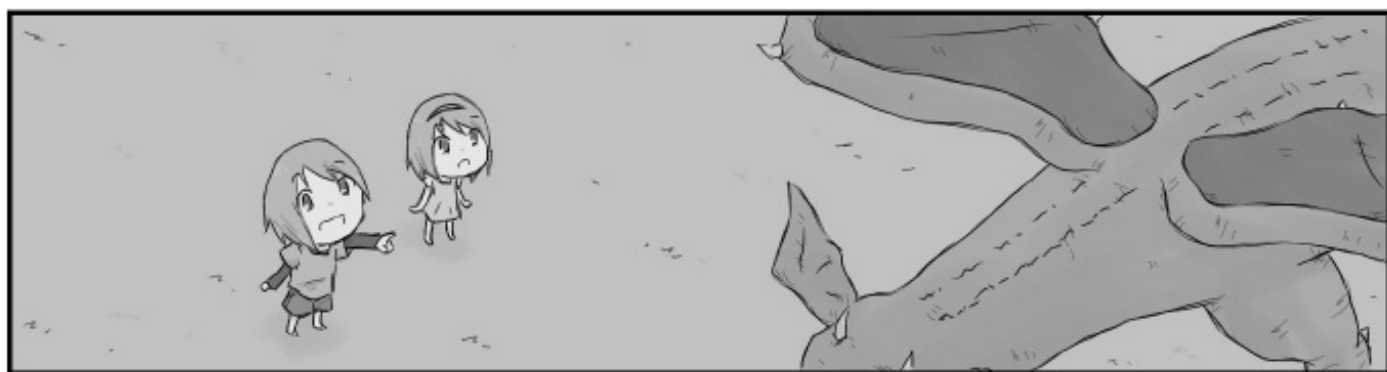


僕と
ヒヨリには

竜の国と
繋がる力が
あるから…

…そう

思い出した…



目が覚めた後
わたしたちは



夢で見た風景を

絵に描いて
遊んでたの



夢で見た時には
何もなかった場所に



わたしが
花を描いてみたら

次に
夢でその場所を
見た時



そこが
絵に描いた通りの
花畑になってて…

わたしたちには
その世界を

「描き出す」力が
あるんだって
分かったの

言っても誰にも
信じてもらえ
なかつたけど…



それを知って
ヨウが描いたのは

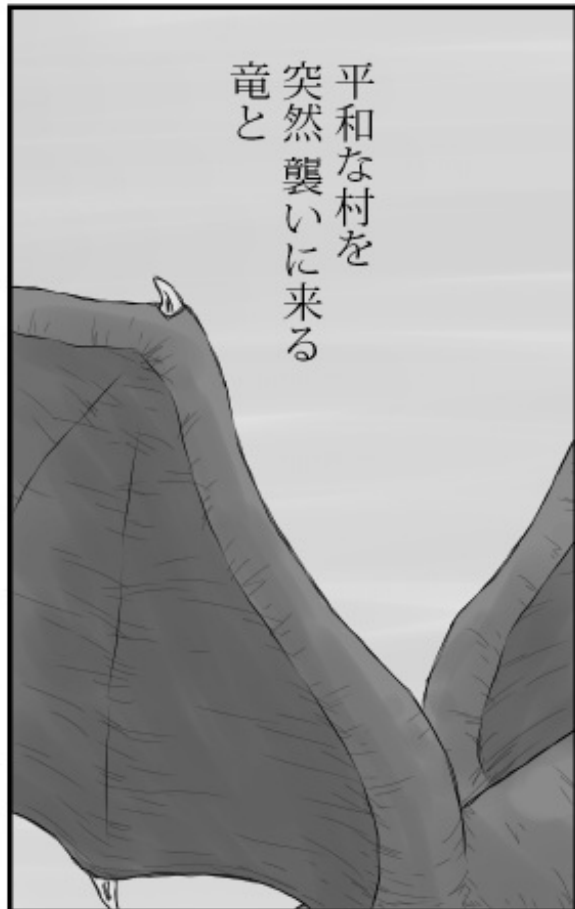
ひとつの
物語…



平和な村を
突然襲いに来る
竜と

少し
ヨウに似た

小さな勇者の
物語

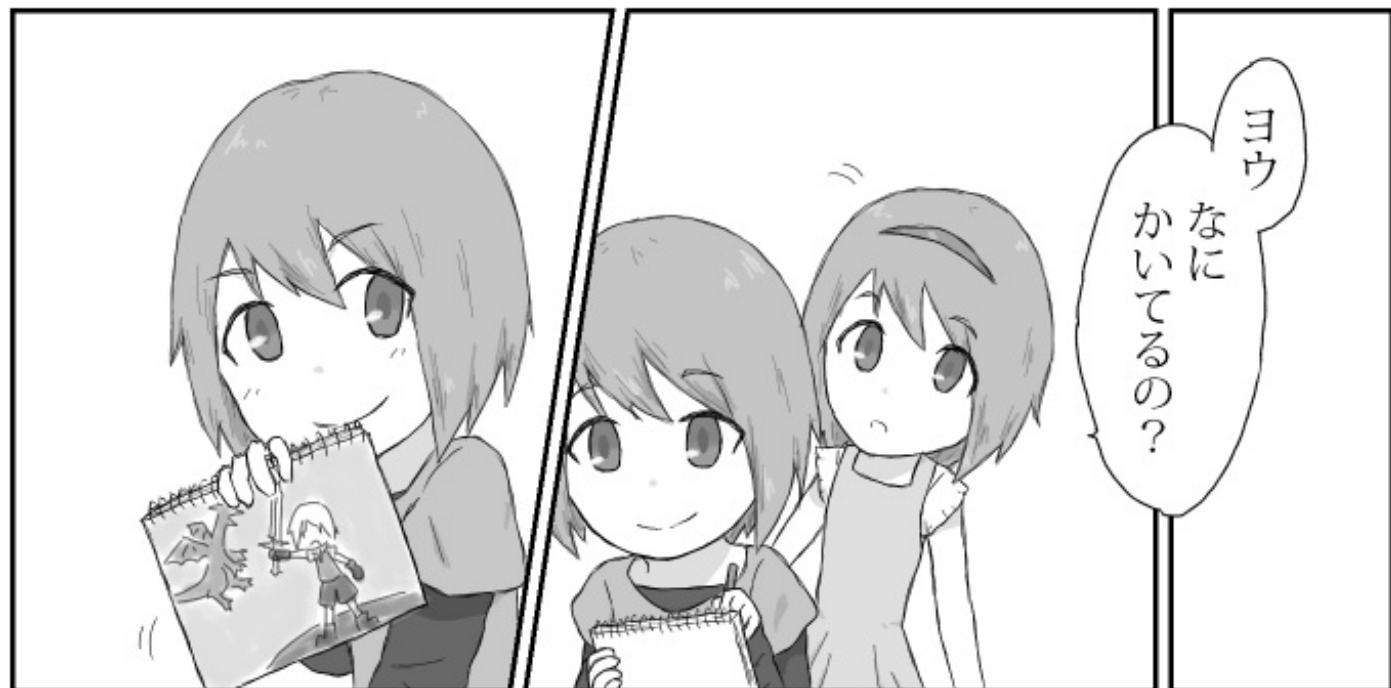


魔法使いと

3人の助手

8





ヨウ
なにかいってるの？



ゆーしゃ!



…勇者よ



むらに
りゆうがきてね

そしたら
ゆーしゃが
どっかから
でてきて…

どこから…?





それに
守り抜くって
言ったって

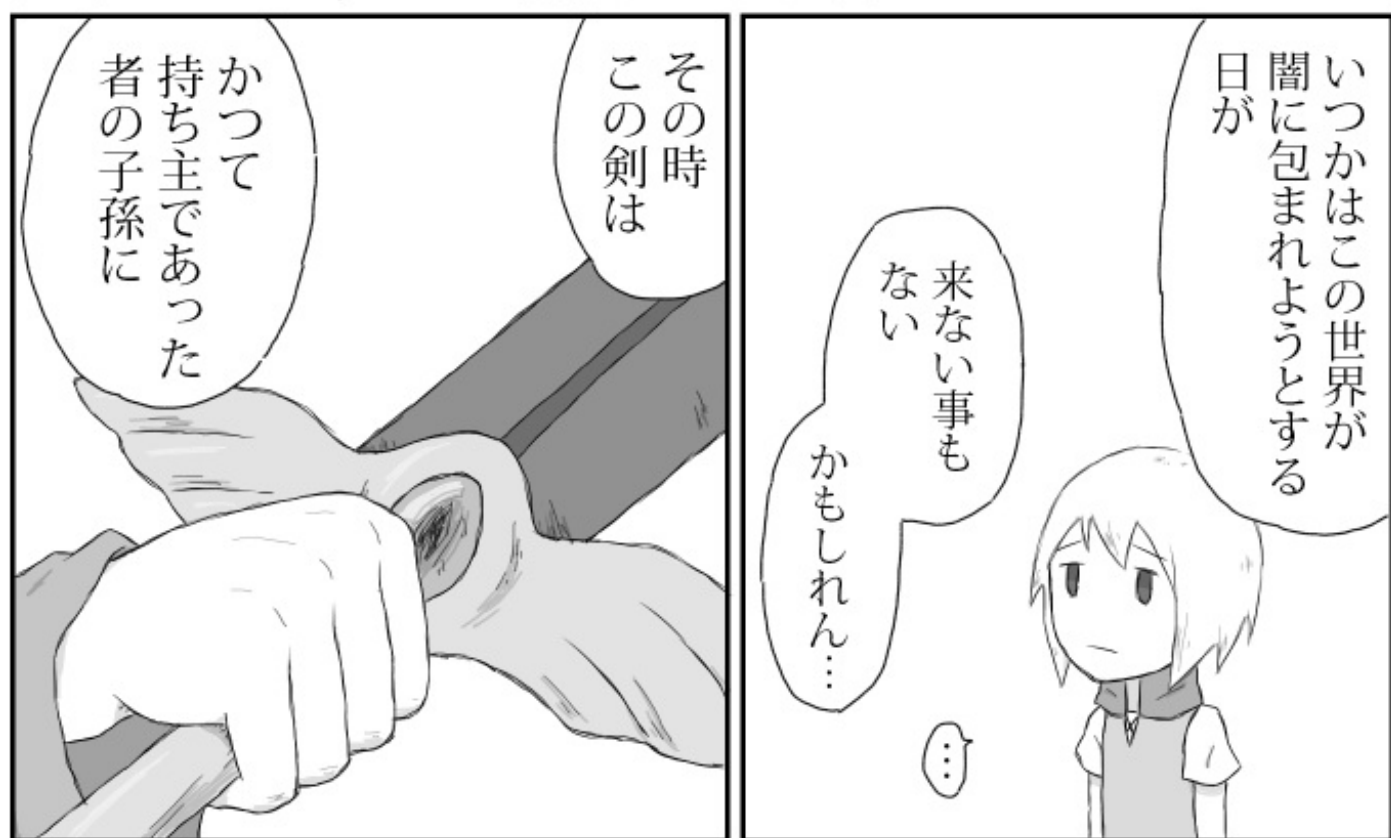
蔵にしまったた
だけじゃないですか

まあな…



しかしな
勇者よ

剣を振るう
必要のない時代が
続いたとはいえ



いつかはこの世界が
闇に包まれようとする
日が

来ない事も
ない

かもしれん…

その時
この剣は

かつて
持ち主であった
者の子孫に

夢を見せる
という

夢…

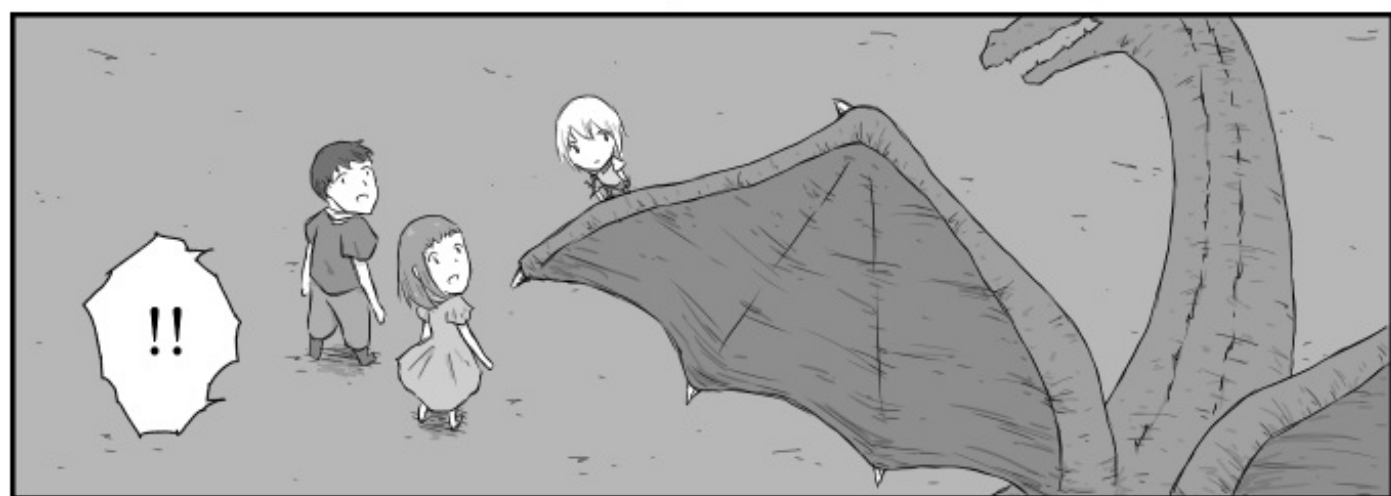
…そういえば
僕

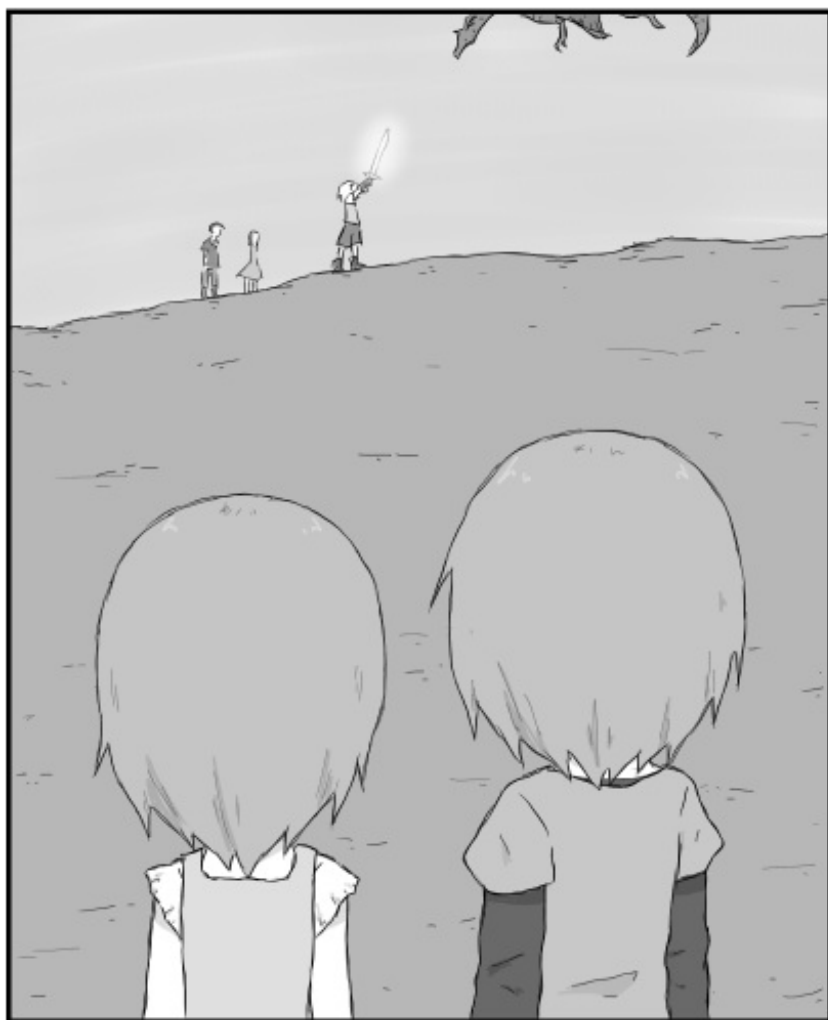
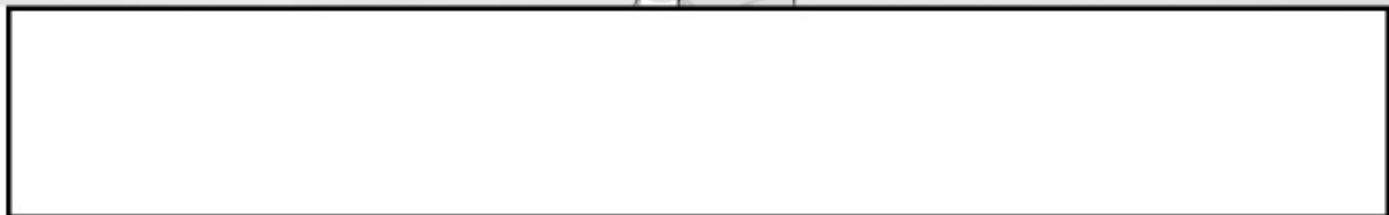
どこか
知らない場所の
夢を見たような…

竜だっ

竜が
来たぞ!!







…ヨウは
自分が勇者に
なりたくて

その物語を
描いたんだけど

夢の中で
自分が勇者じゃ
なかったから

起きたあと
凹んじゃって…

…やつぱり
ぼくには

ゆうーしやみたい
に
勇気ないから…

ほんとは
この剣で

りゆうを
つきさす絵を
描こうと
したんだけど

こわくて
描けなかつた
んだ…

…だから

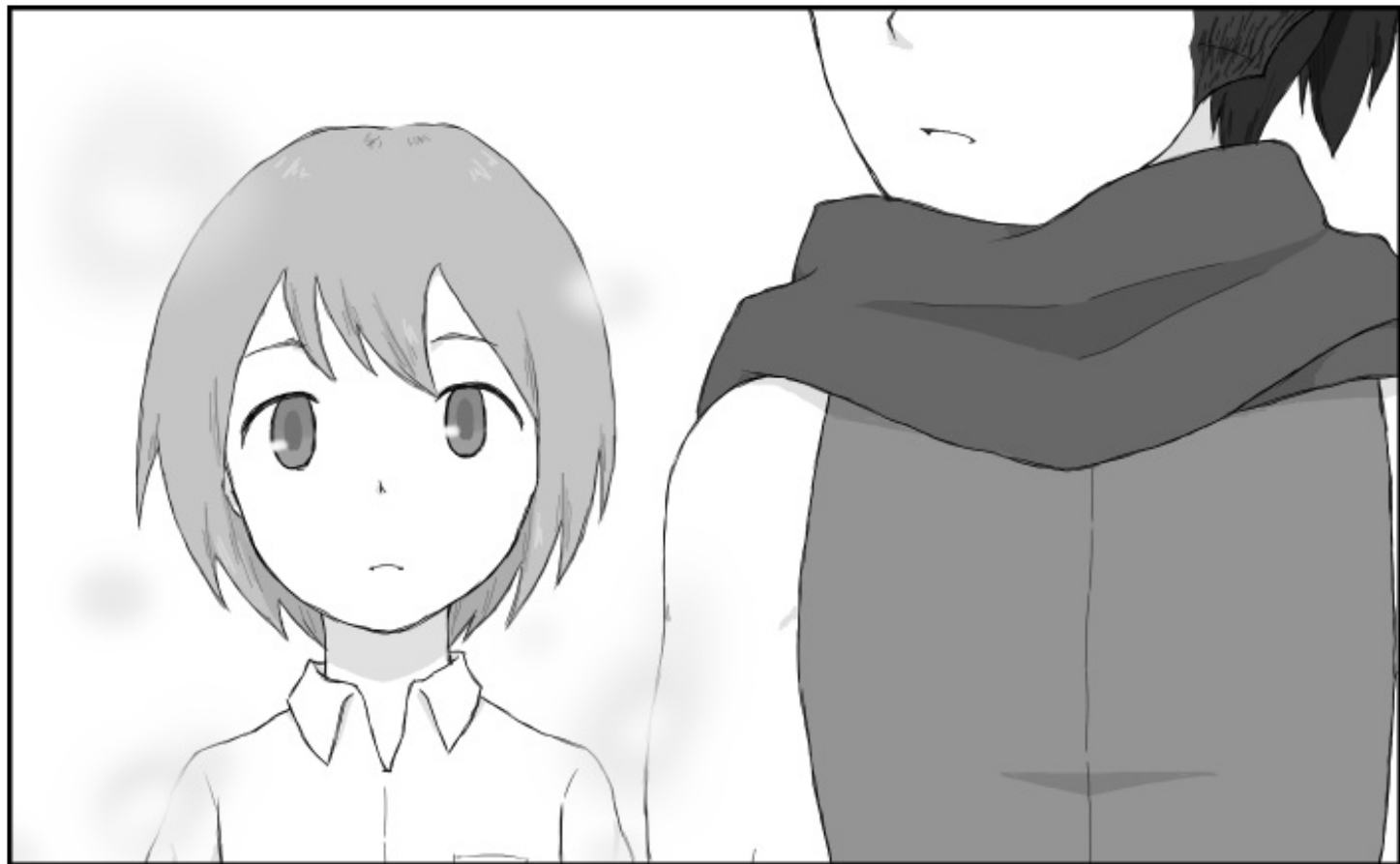
かざすだけで
竜が…

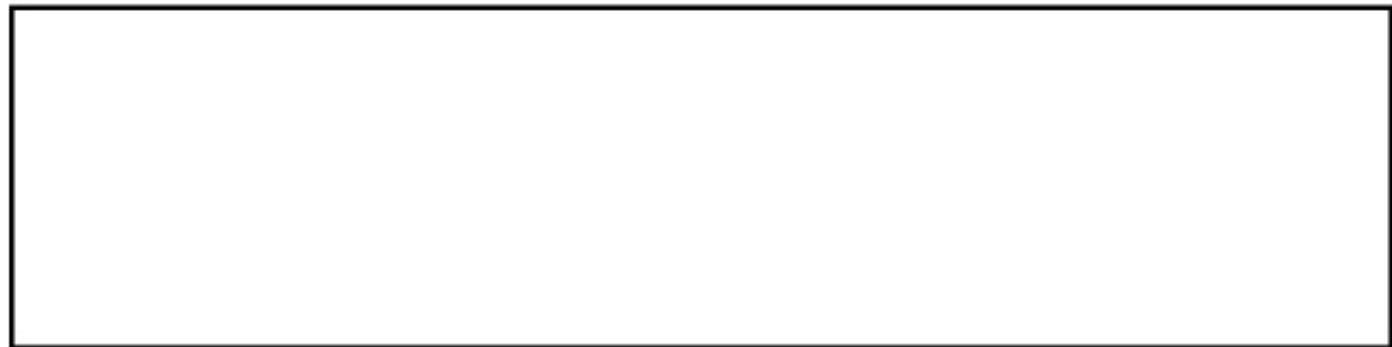
…そうか

あの時の夢も

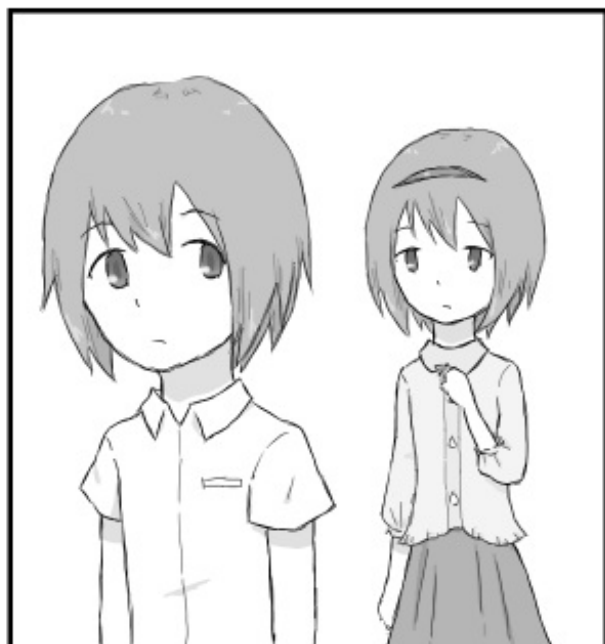
僕がここに
居るのも…











たずけて

ヨウ

ヒヨリ……

















僕・た・ち・に・は

もうあまり
時間がない



僕
の
命
が

終わったら



木
竜
さ
ん
は

魔法使いと

3人の助手





今まで
黙ってたんですか

...なんで
そんな大事なこと



...なんで...



...簡単に
言える訳ないだろ

帰る場所も
なくなつた奴に

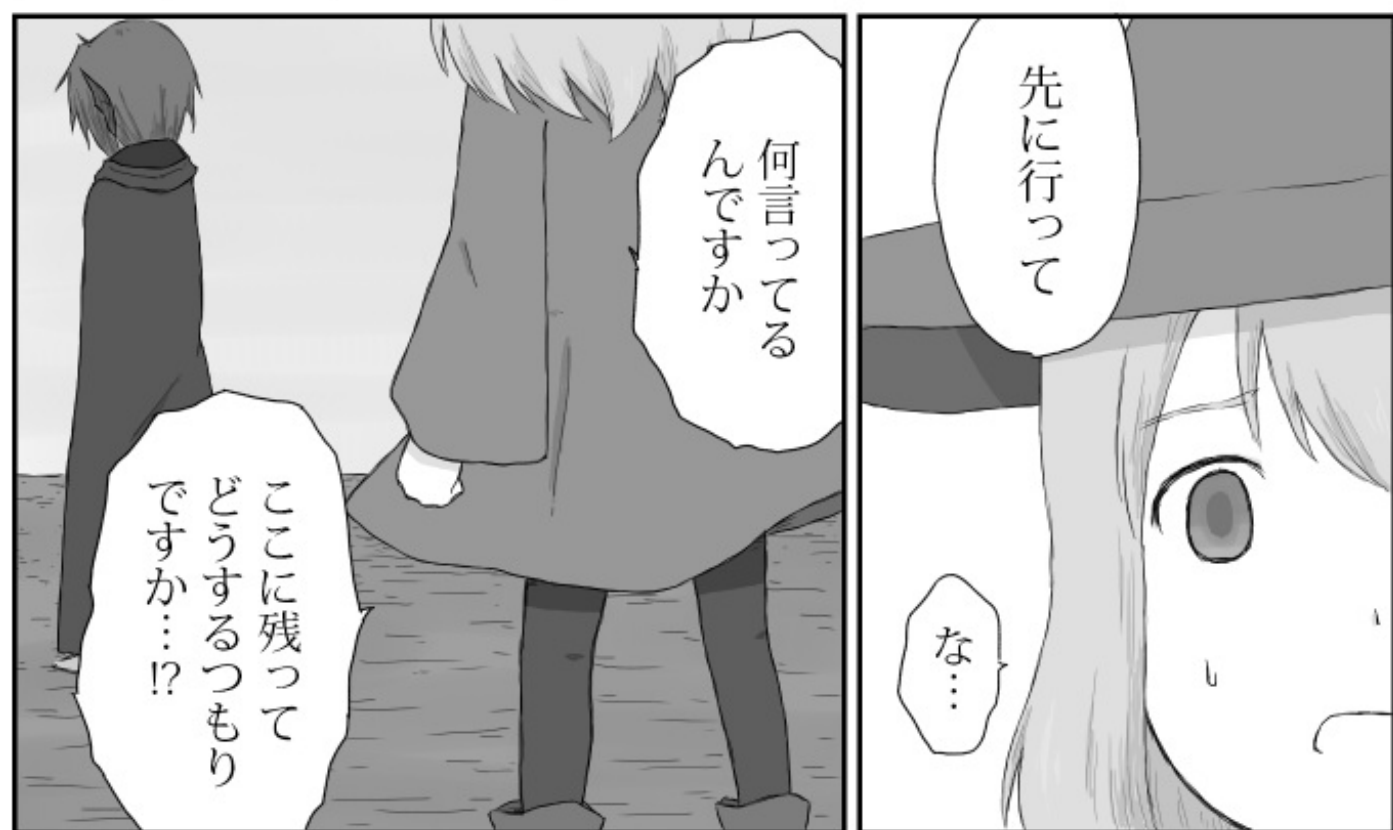


バカにすんな



...ボクが
悲しむと思つて

気を遣つてくれてた
つもりですか



…君たちは
弱いからさ

隊長には
勝てないよ

だから
ボクが残る

…自信满满
だけど

ホントに
一人で…

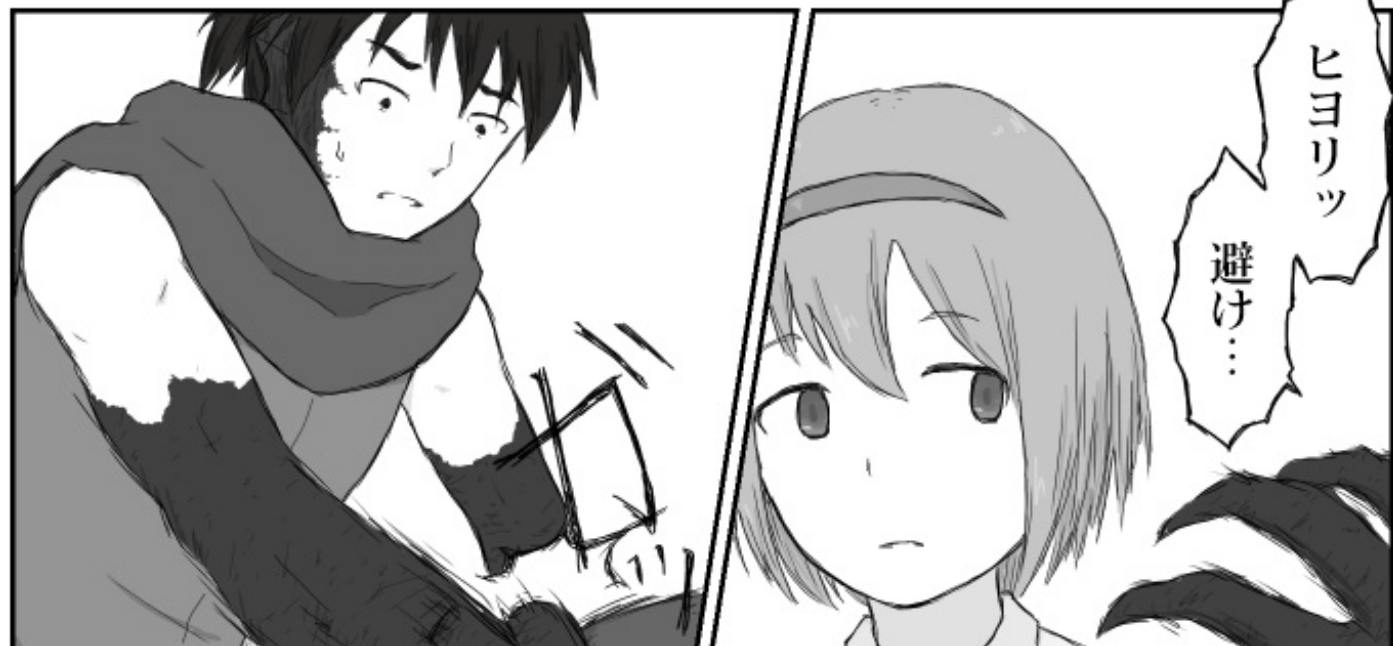
…一人で

戦いたいんだ

それに

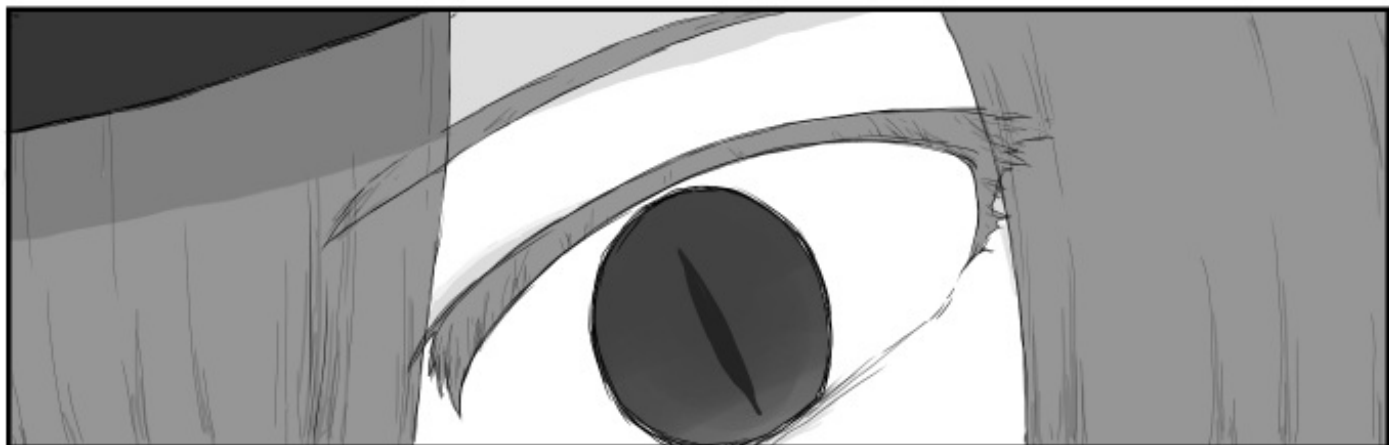
君たちの力は
この先で
必要になる

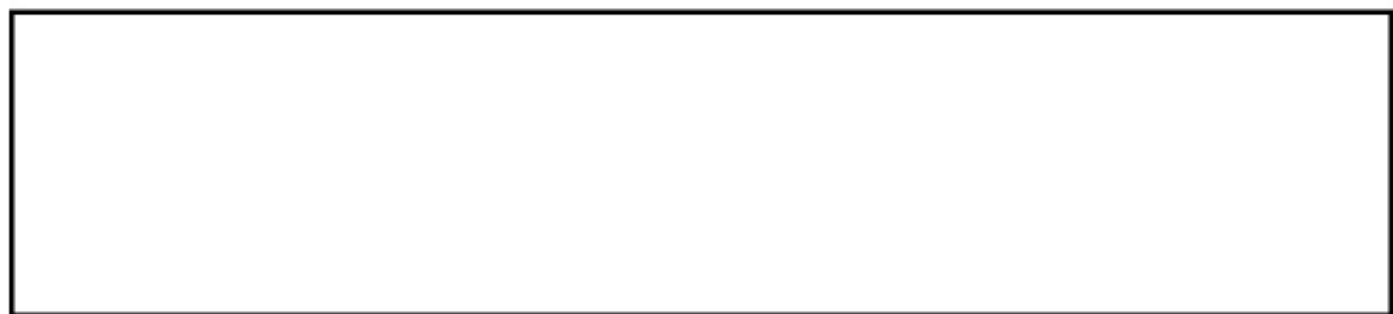














…あなたには
まだ

隊長としての意識が
残っているかも
しれない



竜人隊は強いんだ

でもボクは

もうあなたを
隊長だとは
思わない



黒竜に負けた
竜人隊なんて

黒竜の意思に
負けそうになった
隊長なんて
僕は知らない




だからボクは



全力で

あなたを
止める…!!



強く
なったんだな

…地竜

魔法使いと

3人の助手

8



魔法使いと3人の助手8 描きだすもの

<http://p.booklog.jp/book/106465>

著者 : umikingyo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/umikingyo/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/106465>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/106465>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ